

## 1 学校概要

## (1) 基本的事項

名称：宮城県気仙沼高等学校

住所：宮城県気仙沼市常楽130

教育目標：1 新しい時代に対応できる学力の形成を図り、創造的な能力の啓発に努め、国家及び社会の形成者としての資質を養う。

2 心身を鍛え、豊かな情操と協同の精神を培い、個性の伸長を図る。

3 地域の自然や文化を尊び、国際的視野に立ち、志の実現を自ら目指し学び続ける人材を育成する。

めざす生徒像：健全な心身と地域愛・国際的視野を持って、新しい時代に対応できる学力と創造的能力を発揮し、志の実現に向けて積極的に貢献できる自立した生徒

課程：全日制普通科

2年生から人文類型・理数類型・創造類型に分かれて学習

## (2) 沿革

昭和 2年 宮城県仙沼中学校設立が認可される

昭和 23年 宮城県気仙沼高等学校と改称され、同年開校式が挙行される

平成 17年 宮城県鼎が浦高校と統合

平成 28年 文部科学省よりスーパーグローバルハイスクールに指定される

平成 30年 気仙沼西高等学校と統合

## (3) 教育の特色

SGH(指定期間:平成32年度まで)として、海を素材とするグローバルリテラシーを育成

## ア 目的・目標

海洋問題に係る協働型学習を中心とするプログラムによりグローバルリテラシーを育み、地域から世界に直接アクセスし、対話によって合意を形成し行動できるグローバルリーダーを育成する。

## イ 2つの学習プログラム

## (ア) 協働型学習プログラム

海洋問題に多面的にアプローチする協働型の探求的な学習プログラム

○AL型、協働型学習(学びの質を高める授業・英語教育)

○課題研究活動(地域社会研究・課題研究IⅡ)

## (イ) 東日本大震災復興プログラム

大震災の経験を素材としてスケールの大きな復興の担い手を育成するプログラム

○防災教育(防災チームとリーダー養成)

○志教育(探求型進路学習)

○地方創生学習(気仙沼市との連携)

## ウ 3つのアプローチ

## (ア) スモールステップ・アプローチ

○目標資質・能力を細分化・構造化してスモールステップで養成

## (イ) ダイレクティング・アプローチ

○「本物」と接する活動で生徒の意欲を喚起し感性を磨く

## (ウ) 教員専門性開発・アプローチ

○学習指導法・評価法等の研究・開発・実践

## 2 特色ある取組

## (1) 地域社会研究(1学年 共通)

ねらい：地域の「海」を素材として、多様な地域課題を理解するとともに、科学的探究の各段階の手法を身に付けながら、批判的・科学的思考力、プレゼンテーションする力を中心とするコミュニケーション力を獲得する。

内 容：①講話や研究スキルについての学習を経て、研究テーマを決定

②班ごとに担当者や大学のアドバイザーによる指導や評価を受けて活動

③学校や各専門機関、地域へ出てフィールドワーク

④発表会

## (2) 課題研究I・II(2・3学年 創造類型 通年)

ねらい：1学年で研究を重ねた地域の課題を発展させ、グローバルに思考するための批判的思考力・科学的思考力、総合的思考力・未来的思考力を育成しながら、学び続ける意志と行動力を育み、「新しい時代に対応できる学力」の形成を図る。

内 容：①論理的思考力や各種データの扱い方のガイダンス後、研究テーマを確定

②予備実験や研究室訪問

③ポスター作成・発表、論文作成

④発表会

## (3) 国外交流・異文化理解促進

## ア 英語コンテスト(10月)

英語運用力を実際に発揮する場

## イ 台湾研修(2学年創造類型 10月)

SGH事業の一環として、台湾における課題研究活動または異文化理解や語学力向上のために実施

海洋問題、特に水産資源や海洋自然環境、ジオ環境(地質・歴史・文化資産)、防災対策において台湾を現地調査

## ウ APU(立命館アジア太平洋大学)研修

外国人大学生との交流を通して、異文化を理解するとともに、大学の教授や学生からアドバイスをもらいながら英語によるプレゼンテーションの方法を学ぶ。

## (4) 東日本大震災復興プログラム

## ア 防災教育

防災講話や防災ワークショップ、自衛隊の指導に基づいた生活防災委員企画の生徒による防災訓練、県外の高校生や大学生との震災関連の交流会を実施

## イ 志教育

集団や社会における自己の果たすべき役割を考え、「価値の高い生き方」や「自己を活かす生き方」などを探求する進路学習

「総合的な学習の時間」を活用し、自己理解、キャリアセミナー、職業探究、学びの報・設計図の作成などを実施

## ウ 地方創生につながる学習

気仙沼市やNPO法人が主催する地方創生に関わるイベントに積極的に参加

ユネスコスクールとして外部機関との連携を図りながら「地方創生」と「探求型学習」とを関連づけたESDに取り組む。